官板 海外新聞別集

文久二年九月刊

第五

日本使節紀事

WB43
84

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-001

国立国会図書館

洋書調所譯　壬戌八月刻

官板
海外新聞別集
日本使節巡行紀事

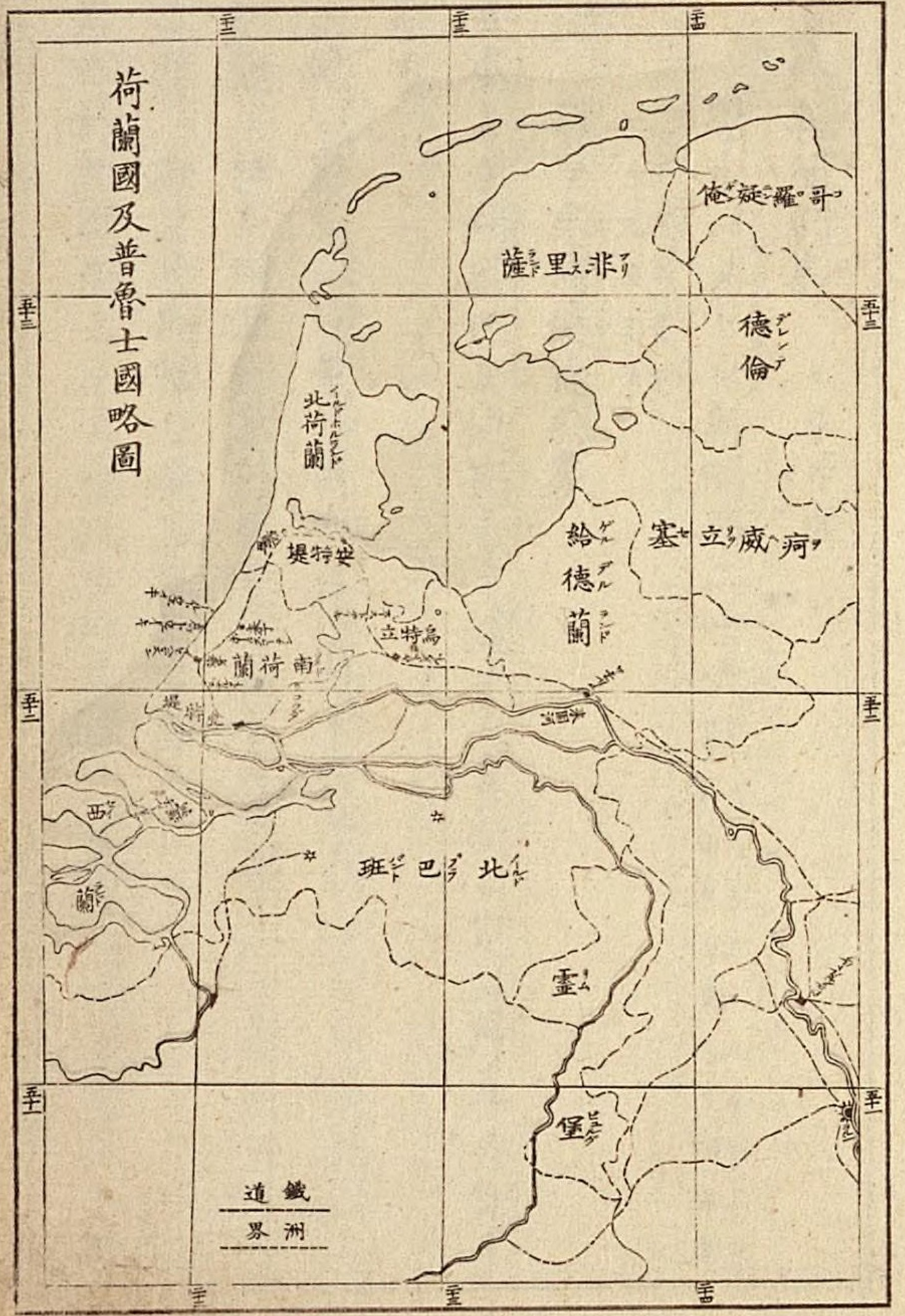
東都江左老皂館

58.1.24

例言

新聞紙中日本の箇條に往〻事の誤れるもの少なからず是も外國人日本の事情を通知せざるに因る然れども今原文に從ひこれを改めざるは其情態を存せんが為なり

SUDZUKI HIDESABURO 藏
官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-002
国立国会図書館



官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076- 003
国立国会図書館

海外新聞別集

九月印刷

原本バタヒヤ新聞第二十六號千八百六十二年第三月二十九日即ち文久二年壬戌二月二十九日なり

○日本國使節の事

日本より歐羅巴に使節として遣す人員新に定る所左の如し

即ち

正使　勘定奉行兼外國奉行竹内下野守

副使　神奈川奉行兼外國奉行松平石見守

監察　御目付即横目役京極能登守

右の外其從屬として從人十八人醫人譯官橋及び家屋の監

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-004
国立国会図書館

官（御普請奉行狀）調役御勘定等及び僕十四人を携へ行く

同第三十二號（同年第四月十九日即ち三月二十一日なり）

荷蘭のコンシュル・ゼ子ラール今年第一月廿二日横濱に居りしが其日日本政府より歐羅巴に遣す使節英國の蒸氣船オーヂンに打乗りて江戸を出立せり此船にはコムモドレ・ジョン・ヘイ指揮官となりて右の使節を香港及び新嘉坡を過ぎ蘇士（シュエス）の方に送れり

右使節は暫時埃及（エヂット）に逗留し尚英國の軍艦を以て佛蘭西に送られ先巴黎（パリス）に至り其後英荷普峨及び葡の諸國に至り其後佛國の軍艦を以て日本に送り歸さるべし

英國のミニステルは日本政府に勸めて使節の頭に高位の人即ち大名中の一人を遣らしめんとせり然れども其答に曰く大名に此の如き命令を下す權なしと依て外國使節に適當せる人品を撰定する要をしさりと

使節の頭に命ずるカミ（守）の稱號は必しも一國の領主と云の義にあらず支配取扱看守の義なり是を以て國主及び社祇に之を命ずるなりと但し大君より支配頭と立つる所の人譬へば公領の奉行の如きは國主等之を快しとせずと雖も大君之を命ずるときは其命名を受くるなり

右の使節及び從屬者は其數合せて三十五人なり

同第四十三號 同年第五月二十八日即ち四月晦日なり

佛國の公報モニテウルの中に日本使節のマルセイルレに來着せることを告けて左件を書き加へたり

日本使節は巴黎に到着し佛帝に謁見せし後江戸府の爲に益を爲べき諸件を吟味し且寫し取る爲佛國の諸部を見物せりと云又日本使節は倫敦に至りて展觀場の開けるに會し其後諸所の告知を得及び歐羅巴諸地文明の次第を察して伯靈(ベルリン)威也納(ウエーチン)及び彼得堡(ペートルビユルグ)に行く目論見ありと云

右使節彼得堡より止白里(シベリー)を過き江戸に歸らんとするも成るべからざることにあらず但し此道路を經て行くときは尋常の道路を經て歸る時間の只三分一を要すべし

日本より往時西土に送りたる使節は千六百五十二年法王の許に送れる一使節及び二三年以前合衆國に送れる使節のみ

但し法王に送りたる使節は元來日本政府より出せる者にあらずして加特力(カトレーキ)教の僧侶基督宗徒(キリステンドム)に改心せしめたる日本の大家より送りたるなり此使節は羅馬に至るに三年の時日を費し出國後八年にして日本に歸れりと云

モニテウル中專ら日本人の學を好み且伶俐にして性俊秀なることを稱贊し且亞細亞大陸の魯鈍遲滯の民と遙に異な

りと云へり

同第四十七號 同年第六月十一日即ち五月十四日なり

佛國の條に曰く日本使節巴黎斯に於て夏日の駈馬調練を見物し且宰相トウヘ子ルの宅に其調練をなしたる者と同く招待され又皇太子拿破崙（ナポレオン）の王宮に招待されたり

右使節の佛國政府に申出けるも冬日に至らず早速佛蘭西船に乗り其本國に歸る望みなりと

同第四十九號 同年第六月十八日即ち五月二十一日なり

佛蘭西の條に曰く日本使節を佛蘭西のトイレリーン城に於て佛帝拿破崙に謁見す其詳記を公報モニテウルに記載せり但し其中に欧羅巴諸府の風習に異なる禮式を記載するを見す○大君即ち日本の國土を守護する王の使節頭特派全權の宰相も佛帝に一箇の口上を述べ且大君より書増れる書翰を手渡せり

其口上中にも使節兩國取結べる條約の成就する慶賀及び兩國臣民の交益厚かるべき懇望を述べたり又使節頭願ひて曰く佛國の軍艦にて日本に送歸し給はるべしと此に於て佛帝直に左の返答をなせり

朕日本帝の代人に佛國に於て始て面會することを喜悦せり朕其互に取換せたる條約の兩國の爲に幸福なる功績あら

んことを望めり

佛國に在る汝が旅宿にも我民心を盡せることを朕に於て疑を容れず又汝が受くる所の饗應又汝が得る所の自由我方に於て取扱ひ宜きも文明なる民の長處に屬するを汝に證すべし

朕汝を軍艦にて本國に送り歸さんことを希ふ汝歐羅巴旅行の愉快なるを思出すことあらむ朕が意日本と最懇篤に和好せんことの願望ある證據を共に思ひ出すべし

同第五十二號 同年第六月二十八日即六月二日なり

第三月二十二日荷蘭のコンシュルゼ子ラトールも同國官府の蒸氣船に乘りヒセアドミラールコープマンと共に横濱より出立して第四月三日出島に到着せり其已前第三月十八日コンシュルゼ子ラールも出島より横濱に歸着せるなり右蒸氣船の指揮官も此度ミニステレ官を免されて英國に歸るアールコック君并に有名の譯官森山多吉郎及び日本役人淵邊德藏を同船に乘せ行けり是れ英國へ公書を齎らすためアールコックと共に乘船せしめて英國へ旅行せしむる爲なり但し右の三人も同日英國の軍艦に乗移り上海の方に出帆せり是れ來第四月七日驛船に乘りて上海を去り英國に旅行せんが爲なり

同第五十九號 同年第七月二十三日即ち六月二十七日なり

諸國雜記中に曰く此節荷蘭に於ては尚倫敦に居留せる日本使節を深切に待遇する用意甚しと

原本アムステタム新聞紙第百二號 千八百六十二年第四月十二日即ち文久二年三月十四日なり

日本國使節の事

日本の使節も種々の新聞を得んことを好めり使節其旅館の格子窓に日本の旗章を垂れ掛けれども其前に人夥しく集りて絶へざりけり其始め佛國の政府其人の羣集するを制せんとしけれども日本使節曰く夫に及ばず佛蘭西の人江戸に旗を立つる時も亦然りと佛國政府も之を正理とも思はざれども使節の説に從ふため其儘になし置けり

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-009
国立国会図書館

其使節第一等の人も其同職及ひ書記官の如く一名あり其意を解譯するに竹を以て取巻られたる野の中に逍遙する所の君と云へりこれまても理解することを得るものなるや

○此使節の爲に別に午膳を設けたるに甚た簡易なりし其食卓上先ツ一椀の飯の備へ其次水中に煮たる魚を列する外別に香湯或ハ他の食物を加へす其後肉を呈すれども使節の持越せる石灰に似たる粉末を以て悉く其風味を除けり而して此肉も飯に添へて食せり其他一二の果物を食し午膳を終りたり○使節もすべて歐羅巴の巧妙なることを歎美し特に酒を稱美して夥しく三鞭酒を飲みたり

此日の早朝レテムフスの選述家ロシュイ君日本使節の前に出るを許され久しく日本語にて説話せり而して其話ハ特に測量學器械學及び星學の論なりき

日本使節ハ一人も婦人を携ふることなし又其自ら携ふる所の旅袋甚た小なり然れども増物を入たる箱を數多く持來りしが爲にマルセイルレより巴黎迄の運賃ハ外國局より夥しく拂ひたり其數約するに三千フランクに許なり

一人の僧常に使節に附添ひてすべて使節になさんとする難問を防きたりし使節此地に到着せし已來許多の商人等其貨物を賣付んとて尋問に來れり○今早朝も尚一人來り

てハレンレーンの縁飾を二萬二千フラングに賣付けんと
せり然とも使節手許(モト)にも一金も所持せざりし○人甚た其
譯官を笑へり其譯官中の最も巧者なる立廣作すらミニス
トレ・プレニポテンシアレと云語をミニスタロン・プレニポ
デンチアロンと通弁したりと

佛蘭西人は外に心配することあるにも拘はらず今他の萬事
を隠し置く日本使節と共に歡樂を極め佛國より出る新聞
中に多く此亞細亞人(日本を云ふ)の事を載せ而も實に善き事の
み記載せり其故は此新聞には佛國内地の事件を説かず且
近時少しく心配の事件あるも記載する程の事なきを以て
なり

佛國内地の制度及ひトウロウセの僭正の令命に就ても余
之を説くを要せず又外國の事件の如きは尚(ホ)之を説かず是
を以て新聞は只モニテウル會社之を説く時方に纔に世人
之を聞くを得べしとす又プロセスミレ會社も新聞を出さ
ざるに因て世上に益をなすこと少し是以て日本使節は今日
リオンに逗留せり其使節の名は笑はずして言ひ出し得る
者なく既に其長きはかりにても衆人の慰となれり使節曾
てマルセイルレにて鐵道に上らんとする頃其從者の内大
危篤なることを唱る者あり是に因て其掛りの者之を送るに

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-011
国立国会図書館

甚さしく心労しさり使節等既ニ蘇士の鐵道を旅して來るなれど此度蒸氣車ニ乘ると初めてニ非す然るニ此の如き説起るハ頗る解し難しとす使節も容貌宜しきをなし然ども事情を解すると甚ざ妙なり但し其内ニも嫌忌すべき人も之あり

二人の日本少年一人ハ十三歳ニして一人ハ十六歳なるか善く佛英二國の語ニ達しされど之を以て其通辯官となせり

人の通知せる如く日本使節ハ旅館「ロウフレ」ニ投宿して此ニ程能く暮せることを我聞けり彼肉食中ニてハ煮さる鳥を最好むと見へさり總て食物ニも何ニても胡椒を夥しく振かけ食するニ臨んで小刀及び肉叉子(ホルク)を用ひさり又衣服及び其他の品物も極めて浄潔ニし且ツ其日本人を頻りニ見んことを好みて絶へす來れる者を全く妨くることなし

予が尚ホ此ニ記して告知すべきハ使節今晩ロトマゴの練馬塲ニ於て演劇(シバイ)を見物し又明後日ハ政事役所の公會を見物すべきことなり但しドウルボン宮の廊廡ニも悪言をなす者あり此公會ハモルニイ氏故ニ設くる所ニして日本使節ニ佛蘭西政議の模様と紳士の鈕釦(ボタン)を付けさる外套を服せる狀を見せしめんが爲なりと云

海外新聞別集　九月印刷

原本ロッテルダム新聞紙第十二號（千八百六十二年第六月二十三日即文久二年壬戌五月二十六日なり）

○日本使節ロッテルダムに到着せし事

第六月十四日（我五月十七日）の早朝より船手仲間の會所に近き上陸場に千萬の人群集して此頃の天氣惡き故日本人兼て取極めさる時刻に倫敦（ロンドン）（英吉利の大都）より此處に來る哉否哉抔と噂しつゝ其使りを待居たり○然るに此日本人の乘りたるアルチュノといへる船巳にヘルンフートスロイスといふ湊に見ゆる趣役方の傳信機にて知らせありたり○此時早速に

鹿特堤の市中に弘まりしるも日本人此湊より獅子と名付さる役方の蒸氣小船に乗り移りホォールネといふ運河を通りて晝頃に此所へ來るならんと推察せり○此故に珎しき日本人を見んとて諸方より集り來る者多く維廉（ウイルレム）堤マース町等其外其近邊も人込み甚しく後れ來る者も此邊に近寄る事能はさる故日本人の通るへき道筋に群集して日本人の鐡道の驛場に行くに大に妨けとならんと見へさり川の上り口の磴（ダンく）に毛氈及ひ幟、木綿等にて飾りさる橋を掛けて日本使節の上陸を仕易くなしさり○此上陸場より市中の兩側は生立へる草花を植列ね其中間に彩りさる竿を

二行に立列ね此竿の上に和蘭想國の幟オラニーの幟鹿特堤の幟及ひ日本の幟を翻しさり○此日本の幟も白地に朱を以て日の丸を染めさる者にて以前ヨングヘールカツテンデーケの日本に在留せし頃此人より日本の役所に云ひ出し日本帝王（ミカド）の幟印と差別して日本總國の幟印とせし者なり○偖此兩側に立さる幟の間の道を日本人の入るへき館舎に到るまで毛氈を布き並へさり○加之堤の近邊又も川中等にも夥しき旗幟を飾り立さる三本帆の大船又も蒸氣船あり或も諸所近邊を漕き廻る小船あり又街上にも千萬の人群集して少しの隙地もなく家々の軒下にも數多

の士女等集りて實に其形勢(アリサマ)を覽す許りなりき
第十時半の頃第四歩兵レヂメント隊の第四バタイロン隊
ゴウダより維納堤に來りて日本人の入るべき船手仲間の
會所の左側を警衛し又其右側は都府の兵士堅固に警固せ
り○其後暫ありて饗應掛りの役人ロウドンといふ人政事
書付預役パイレーレスと共に同様の出立にて都府年寄役
の案内にて兼て日本人を招待する處と定め置きたる赤書
院に通りたり○此赤書院は此館舎の門戸の通りに頗る立派
に飾り付けたり○此赤書院にも國王の畫像の下に紅の花
形を彫りたる歩障(ツイタテ)を立て其向側にも和蘭と日本の幟を立

たり又此書院の右の端にも和蘭の幟を立て飾り左の端に
も日本使節三人の紋付けたる三本の幟を立て飾りて其美
麗言語にも述かたくして此赤書院は實に花堂とも疑はる
許りなりき○此幟は三本共に地は天藍色(ソラ)にて白き紋を付
けたり第一番の使節竹内下野守といへる人の紋は周圍(マハリ)に
林檎の如き者五ツ星の形をなし今一ツの星は其眞中にあり
て其側に芍(シヤク)の如き者あり第二番の使節松平石見守といへ
る人の紋は大なる木葉三枚列りて其頭に芽あり又第三番
の使節京極能登守といふ人の紋は四ツの菱を四角に組た
る者なり○又其側に日本字にて左の書く如き付たる幟を

立さり

和蘭人日本尊客の為に謹て立之候

又此赤書院の隅に和蘭交易府の幟を飾り立て其外其書院
中にある諸具ハ或ハ紅色或ハ白色或ハ青色等にて其美麗
云ハん方ぞなかりけり
諸饗應の役人ハ暫く此赤書院に日本人の來るを待受けて
居たりしに俄に千萬の人騒き立て日本人の乗りたる蒸氣
小船已に着岸せしといふ噂頻りなりけれハ饗應の役人ハ
直様出て見しに日本人甲板の上を彼方此方と歩行き廻り
殊に其内の一人直に筆墨等を取出して何角寫し取る様子
なりしが後に其者の英吉利語にて巧みに話すを聞けハ此
處にて日本使節を招待する設けの丁寧美麗なる模様を寫
し取りたるよし○此處にて使節始總勢皆暫時上陸の用意
を整へたる後和蘭國王の命にて英吉利迄迎に行きたる饗
應掛り役人の案内につれて直に上陸せり此時和蘭の樂人
組ハ歌を謡ひ音樂をなして其上陸を祝ひたり○日本人此
上陸場より館舎に到る迄の模様ハ實に珎しき形勢にて茶
色顔の日本人形(ナリ)ハ小男にて青鼠の上衣を着し數種の彩色
にて草花を付けたる野袴を服し白足袋をはき茶色の草履

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-016
国立国会図書館

を用ひ大なる菅笠を被り奇麗なる大小を帯ひて皆一同に
歩兵の行装にて出立たる模様は實に奇妙なる形勢(アリサマ)なりき
其後使節は都府年寄役の案内にて其従者を引連れて書院
の内に通り書院の真中に待居たる饗應掛り役人の前に來
りて腰を屈め笠を左の手に取りて挨拶をなし其後其従者
も皆笠を脱き腰を屈めて役人に挨拶をなしたり○偖一同
其座に付て後ロウトニ（前に云へる饗應掛り役人）といふ人日本使節に
口上を述へホフマンといふ人は此口上を日本語に和解し
て使節に傳たり○其口上には日本使節の今度和蘭國に來
りたるとの忝き旨を申述へ和蘭と日本とは余國とは違ひ

舊来の好みはある事なれは實に信友ともいふへき趣を述
へ且右様の譯柄はある事なれは今度始ての渡來は彌交り
を厚くするに甚宜しかるへき旨をも申述へたり○第一番
の使節此口上の趣を篤と聞て直様其返答をなし和蘭の日
本通詞此返答を和蘭語に和解して饗應掛りの役人に傳へ
たり偖其口上には今度使節渡來に就て和蘭にて深切の取
扱は使節始總體の者殊に忝き事に存し就ては日本と和蘭
の好みは二百年來のことなれは決して和蘭の事は余國同様
には存し申さゝる旨を申述たり
諸人此使節の返答を聞て兼ての噂とは大に相違して日本

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-017
国立国会図書館

人も決して頑固にはさまりて妄に外國人をいやしむる等の事なく其口上も取廻もし等も實に丁寧に行居き理非も善惡も能く辨し居る者といふとを始て承知せり○殊に使節三人の饗應掛り役人に應接せし模様茲都府年寄役に深切なる應對をなしさる模様も實に日本の能く開さる證據の第一なりき○其後直様日本書記方の一人筆墨を以て立ち和蘭人に向て聊ヵ恐るヽ氣色もなく此書院の飾り立の模様歸着の上委細日本大君（將軍家の事）へ申上度候間一くく承知致度旨を申述て此飾立の寫取りに取掛りさり○此一人の者此書院に詰合せさる諸役人の役名を承知致し且ッ其壁際

に掛りさる畫像も何人の像なるや承知致し度旨をも懇望しさり○其側に居さる人委敷其返答を爲して彼是の事を委細に話しさり○其後彼一人其側の人に向て我等此所に來りて數多の美麗なる貴女子を見さる事も決して忘さる様記錄し置くへしと云ふさり

偖其後日本人に向て暫時休息しても如何哉と尋ねて日本人の常に好める茶菓子其外煙草道具等を出して頗る懇切の取持を爲しさり○但し使節始總體旅行の勞れにて早く海牙（ハーゲ）（和蘭の都にて國王の居る所）に到りて休息しさき模様なるを見取りし故兼て用意し置きさる乘車を與へて之に乘らせさり○

第一番の乘車には日本の使節三人並先年日本にありて交易奉行の役を勤めたるドンクルキュルス乘り第二番の乘車には以前日本に行て其土人と交りたる人にて當時海軍甲比丹を勤むるヘルスレーケン乘り第三番の乘車にはホッフマンと云へる學頭第四番の車には醫國掛りの大役人ミルデンと云へる人乘り又日本使節に從ふたる大役人は四五人づゝ分れミに此四の車に乘り其外の日本人又は和蘭人は此余の車に乘りたり

凡第一時頃に使節の車鐵道の問屋場に到りしに其所の役人等大に此來着を祝したり其外此鹿特堤の道筋にては此道筋の支配役等皆其來着を祝したり

暫くありて最早蒸氣車を出さんと思ひしに平日通行の蒸氣車第十二時半過に通るよしを聞て暫時待合せたり偖其待合せの間使節三人は第一番の番部屋に入りて其所にある丸き卓子に向て場所取り其外の大勢の人は壁際に場取り其外殘りの者は第二番の番部屋に入りて坐したり

此土地の士女等日本人を見んとて此所に來りしに此問屋場の支配役人等少しも制することなく此内に入りて日本人を見る事を許せし故に千萬人の士女殊に第二番の番部屋に入り來りて或は日本人と名札を取遣りするもあり或は

手真似をなして話をするもあり或は和蘭語英吉利語等を知りさる日本人は頻りに其語を用ひて話抔をなし又日本人も奇妙なる色の紙或は日本の烟草其外珍器珍物等を取出して和蘭人に遣り其代りに和蘭人よりも名札或は巻烟草其外夫に附きたる道具等を日本人に送り抔して實に其親しき形勢(アリサマ)は十年も二十年も交りたる人と聊も異なる模様も見へざりけり

右様の事にて一時斗も休息して茶を飲み烟草を吸ひたる後蒸氣車を出すといふ相圖ありし故第二時少し過きの頃使節等頗る大悦の模様にて結構なる蒸氣車に乗り海牙をさして乗り出しさり

蒸氣車にも問屋場にも和蘭と日本の幟を立さり

日本使節其外夫に從へる役人の役名並姓名等左の如し

第一正使　竹内下野守
第二副使　松平石見守
第三組頭　柴田貞太郎
第四勘定　日高圭三郎
第五目付　京極能登守
第六徒目付　福田作大郎
第七調役　水品樂太郎

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-020
国立国会図書館

第八調役　　岡崎藤左衛門
第九普請役　　益頭駿次郎
第十定役　　上田友助
第十一定役　　森鉢太郎
第十二同心　　齋藤大之進
第十三小人目付　　高松彦三郎
第十四小人目付　　山田八郎
第十五通詞　　福地源一郎
第十六通詞　　立廣作
其外翻譯方醫療方兼帯之者兩人并醫師兩人其外使節等の

家來十一人贈物宰領方五人都合三十五人あり（諸役の順序等原文甚誤れり）總て日本使節旅行入用ハ皆其土地〻〻にて賄ふとり佛蘭西の巴勒（パリス）大許にて使節の入用日〻凡四萬五千フランク（凡我四千八百四十三兩程）より五萬フランク（凡我五千三百八十一兩程）位なりしよし夫故佛蘭西人民後にハ此入用を出す事を嫌ひけれど日本人も甚だ氣の毒に思ふて先〻に足を進むる事を好まざりしよし噂ありき

海牙に到着せしより逗留中の事

第十二時頃鹿持堤より日本の使節一時半許鹿持堤に留るべけれど第一時より第二時の間にハ海牙の都に到るべし

といふ知らせありけり夫ゆへ海牙にても追々に其待請の用意をなして問屋場の前に左の如く書付ける幟を立てさり

和蘭の都にて日本尊客の為に謹て之を立て候

其後直に都府年寄役饗應役并評議役等諸人問屋場に集り其外海軍掛執政都府の軍奉行並物頭ウヰルブレニンキといへる人其外政事掛并軍事掛の諸人等も集れり○使節同勢の通行すべき道筋にはグレナデール備の名のバタイロン四

隊と並にヤーゲルといへる隊備へヒュイーゲンスプレインと云へる處にもダラゴンテル備の名のレスカドロン四隊備へけり○其道筋の飾り立實に善美を盡せしゆへに其見物人夥しくベルレンヒュエと云へる旅館迄も實に寸隙の地もなかりし程なりき○使節の鹿特堤より來る事遲刻せしゆへにや見物の人彌増にふへて其羣集混雜云ん方ぞなかりけり○其後鹿特堤より海牙の問屋支配役人に使節の乘りける蒸氣車の出立せし故第三時の頃にも海牙の都に到着すべしといふ相圖ありけり

斯て日本使節等海牙の問屋場に到着し其前にて蒸氣車よ

りトり案内につれて第一番の番部屋に入りければ都府年寄役の者日本使節に向て能こそ渡來したりと挨拶し終りて市中總體の口上なりとて使節等海牙府に在留するときは都下の者總體の大悦斜ならずと中述べ和蘭の日本通詞此口上を日本語に和解して使節等に傳へければ第一番の使節其返答の爲に丁寧に腰を屈めたり

其後暫くありて使節等夫〻乗車に乗りたり○第一番の車には都府の軍奉行并都府年寄役乗り其外の車にも役人等使節と共に乗りて丁寧なる取持をなし又其外の車には使節に從へる諸役人從僕等乗れりへ夫より此行列ワーゲン町及イ子町ホーグ町ブラーツランゲフエールフルベルクコルテフオールホウト及びボスカント杯といへる處を通りて行きしに樂人組は其脇に付て頻りに悦ばしき音樂をなし又道筋には千萬の見物人群集して悦ばしき聲を發して此行列を祝ひたり○日本人の珍しき顔色容貌には實に和蘭人一人も驚かざる者もなかりし程なり但し又日本人の才智勝れたる事には誰も能く氣附たり

偖其内にベルレヒユヱといへる旅館に着きたりしゆへ役人等使節を案内して其館内に通したり○其後役人も暫時其館内に留り居たりしが使節等一同今日の取持方の行届

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-023
国立国会図書館

きさるを満足せし様子を見て其後此旅館を去りさり○殊よ此旅館の飾り立如何よも結構美麗を盡してありしゆへ日本人の満足斜ならざりき○此館内の尤も表立さる坐敷も殊よ結構なる者よて其飾立も一形ならず或も千萬種の美花を以て飾り又も名人の作よて草花の彫物をなし加之色々の旗幟等を立て其間の處よもオラニー家（当時の和蘭国王の家筋）歴代の畫像を掛け其外廊下階子も勿論館舎の表構よ至る迄殘る處なく草花を以て飾り此表構の上よも日本と和蘭の幟を飜しさり○其外海牙よ來着より旅館よ入る迄の間樂人組の者大鐘を打ち之よ合せて面白き歌を謡ふて祝し

さり○行列の前後を警衛して旅館迄到りさる騎兵隊も使節到着の後直よ歸り唯使節警衛の爲よ設けさる番兵隊のみ此旅館よ留れり○英吉利佛蘭西等よても其饗應よ善美を盡し日本人を悦もせし事數らぎりなるべけれども其取持の深切よして實よ心底より出さる饗應といふも恐くも我和蘭の如き處もなかるべしと思もる

偖日本人此旅館よ着て二日の間休息をなし十七日（我五月二十日）より諸處の表立さる場所を見物よ出さり其話次よ委し

十七日（我五月二十日）も和蘭王妃の誕生日なるゆへ球投遊びの場所まて夥しき人集りて軍の狂言をなしさりしよ使節等も

乘車に乘りて其祝ひの場所を見物したり○此時騎兵隊使節等の嚮導となりて其旅館より出て此狂言終りて後又此使節等を引連れて本の旅館に歸れり○其次に使節等珎物奇器或ハ圖畫等を納めたる寶庫を見物せり○其暮方に至りて森林の中に暗夜も白晝と疑ハるゝ程の萬燈をとぼしブリーチンといふ人日本人を誘ひ萬人の集りたる天幕の內に導ひて見物せしめたり○日本人ハ此十七日を今日迄の中にて一番悦ハしき日なりと云ひ又殊に好て婦女子と交り遊びて色々の物を取かへ抔したり○又其後再び萬燈を見物して本の旅館に歸りたり

十八日（我五月二十一日）ハ又使節等二箇所の製造場を見物せり其第一の製造場ハエントホウフェンといふ人の持場なり○此製造場の內にハ諸處に日本人饗應の爲に色々の事を書付けたる者抔を置き又其外にハ日本と和蘭の幟を立たり○偖使節等ペルススレイケントンクルキユルヒュスミュツレル及び都府年寄役等の案內につれて此製造場に來りけれハ持主エントホウフェン此輩を招待したり

此製造場の內にある住居家の高樓にて暫時休息なし日本の茶なとを出せし後暫くありて重荷を揚る爲に鐵にて作りたる桔槹（ハチツルベ）を使節等に見物させ其外追々に大なる鑄物部

屋にて日本人の感心する様なる事のみを見せたり○又小
き鑄物部屋にも使節を誘ひ行き(謹んで日本人に服す)とい
ふ語并(日本尊客の渡來を祝す)と云ふ語を文字に鑄出した
りしが其手速(ハヤ)かなる事にも日本人一方ならず膽をつぶし殊
に桔槹の速かなる働を見て其働く理などを詳に聞取りし
故に其驚き實に尋常にも見へざりけり
右様色々の珍らしき物抔を見物させたる後又使節等を高
樓に連行て此處にて暫時休息をさせたりしに其時使節を
始め總勢の者共見物したる物の話をして皆褒めざる者も
なかりけり○其後此製造場にての取持頗る結構なるを謝
せんとて使節に附添居たる和蘭の役人等其姓名并使節等
の姓名をエントホウフエンの内室の所持したる手扣帳に
書付けたり
此事終りて始め入來りたる時分の通りに頗る結構なる取
扱を受けて此製造場を去りたり○偖今此製造場を去る時
分使節等并附添居たる役人共皆一同に取持の深切に行届
きたる禮を丁寧に述べたり
又第二番の製造場も尤大なる者にて其名をプリンスファ
ン・オラニーと云へり○此製造場にても使節等其門口迄至
りし時分此持主ホッツといふ人とクーフェルデンといふ人其

所迄迎に出たり○偖其處より此持主と此場所の造營方の者とにて使節等を誘ふて道具仕掛けの設けある部屋に入れたり○此處に入り廻り廊下を通りて其所に於て廻り板の上にて椿車の心木を造るを見て使節等大に之に感心し其後又第二番の蒸氣道具のある處に到りて其道具を見物したり○偖其次に鑄物場に到りしに此處にて鑄物師使節等の見る前にて速に謹て日本人に服すといふ語を文字に鑄出したり○偖其文字を鑄出したる節其仕事をなしたる鑄物師等皆大悦の模樣にてフーラフーラ（祝ひ言葉なり）と祝ひたり○又其後第三番の蒸氣道具及び鐵道に設け置く橋を造るを見物し又其蒸氣仕掛の道具等を以て頗る重き荷物等を速に二階三階等に上るを見て使節等殊に驚き感したる模樣なりき○其外又使節等の見る前にて莫大なる車の心木を蒸氣道具にて造作もなく此所彼所（コヽカシコ）に動かし或は桔槔にて高く引上け抔なして見物せしめたり○斯て色々の見物も済したるに使節等も此製造場の持主に丁寧に禮を述へ其姓名を外國人姓名録といへる帳面に記し附添ふたる役人等此口上を和蘭語に和解して持主に傳けれは職人等一同に聲を揃て能く參られて大悦なりと返答するを聞つゝ使節等一同此處を出たり

十九日（我五月廿二日）には使節等大砲の鑄造場を見物に行きければ此處にては軍事掛り執政役使節等を招待し夫より鑄造場に連れ行き一挺の古き大砲を出して之を鎔かし夫に青銅を加へて直樣に一挺の新砲を鑄て見せたり但箇樣の事は今迄外國にて數度仕損じたりしが和蘭にても聊も仕損する事なく十分能く出來たり○其外日本人を引連れて此製造場中殘る處なく見物させしかば使節等始一同皆滿足せし趣を告げ厚く禮を述て去れり

其次に使節等ミーリングといへる人の持てる石版場を見物に行き此處にて暫く留り居て圖畫を石板に押すを見殊に圖畫の彩り方種々の色一時に出來るを見て大に感心したり

其後は仍日本人石板の道具仕掛を見物せんことを懇望せしゆへ色々の道具を十分に見せしかば使節等も大に滿足したる模樣にて其中にて三四人の者紙を取り各自分々々の書判を書きしゆへ夫を直樣日本の紙に押して其當人等に與へたり○斯くて日本人は其滿足一方ならずと見へ再三禮を述て遂に此場を出たり

晝後に至りて使節等又地形寫し取場に行きしに此處にては軍事掛り執政役の者此輩を招待して色々の地形を寫し

取る模様を見物させたり
其外又諸處を見物せんとてバールマンといふ人の持てる諸品の製造場ベーといふ人の持てる時計の製造場或ハメーヱ人といふ人の持てる燈籠の製造場並にニーツホフといへる人の持場なる書物賣買場等に行きて色々の珎物珎器を見物せり
其後使節兩人並に夫に從へる輩饗應掛り役人に誘ハれてセーヱニンゲンといふ浴場に行き又ゼールストと名付けたる館舎に行きしに此處にても日本人の來るを見て直様日本の幟を立たり斯て此處に暫く留り休息をなして和蘭の海魚を見物せし後パットボイスといふ處を通りて海牙の都に歸りたり

使節等鹿特堤を見物せし事

海牙より便りありて來六月廿日（我五月廿三日）に日本人鹿特堤を見物に參るべしと告け來りしかば其當日にハ早朝より日本人を見物せんとて悦ひ勇んて來る者其數を知らす實に其群集云ん方なかりけり○右様に和蘭人等日本人の渡來せしを悦んて勇み立つ所謂ハ歐羅巴（エウロッパ）に數多の强國ありと雖とも二百年來日本人と交りを結ひ居る國ハ和蘭の外一ヶ國もなきが故なるべし○問屋場の所にも日本と和蘭の

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-029
国立国会図書館

幟を立置けれども其處にも尤多くの人群集して恰も敵軍の十重二十重に圍みたるが如く見へたり○又日本人の通るべき道筋にも都府年寄役并奉行評議役或も鐵道掛り諸役人其外今度饗應の事に預る諸人悉く集りたり○然るに第十時の頃兼て國王より日本人案内方を云付られたる役人共使節三人並に夫に從へる同勢の内十三人の者共を誘ひ尋常の蒸氣車に乗りて海牙より來れり但し此車も王家所持の車なり○斯て一同の者直様蒸氣車より下りけれバ此鹿特堤支配の諸役人使節等能くこそ參られたりといふ挨拶を述へ且都府年寄役を總代として和蘭と日本との舊來交り厚き國なれバ今日使節等此處に參られたるも此地の者一同殊に大悦に堪へざる事なりといふ事を述べ通詞の者此口上を日本語に和解して使節等に傳へけれバ上席の使節竹内下野守といへる者直様忝く存ると云ふ返答を丁寧になしたり○偖此挨拶も濟けれバ都府年寄役も使節等の案内となりて使節等を兼て用意し置きたる乘車に乗せコールシングルといふ處より鹿特堤の市中を通りてボームピーといふ處に到り和蘭蒸氣船仲間の會所の前なる濱邊に兼て日本人を乘する爲に用意し置きたる和蘭の船賃仲間の持てるヨインフィツレといへる船に使節等を乘せて直

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-030
国立国会図書館

様此濱邊を乗り出したり偖此船は第一に日立ッ場所に日本の幟を立て其外の場所にも日本の幟其外和蘭オランニー或は鹿特堤等の幟を頗る奇麗に立飾りたる者にて實に目を驚かす許の美船なりき

此處よりフェーノールドに到る迄商賣方評議仲間並に製造方評議仲間の者等此使節の案内となりて行きしが其節使節等に向て此度貴君等の鹿特堤に來り給ひしは後來日本と和蘭の交易の盛になる大本なりとて鹿特堤の商人等一同に別て大悦に存すると云ければ使節等此口上を聞て我等此鹿特堤に来りて其滿足斜ならず且ッ此以後日本と和蘭の交易も相違なく日々に盛なるべしと存すると返答し饗けり

偖フェーノールドにては其湊にある鍛冶場の脇に和蘭總國の幟を始め其外鹿特堤並日本の幟等を立て飾り又其側なる打開けたる地面には大ひなる天幕を立て其外色々善美を盡して飾りたり○偖其天幕の前面の頂きには幟を立て其幟には上の方に日本の紋を青色にて二ッ附け其下の方には商賣仲間の印を附け草花を畫き且ッ日本字にて能く來れり能く來れりといふ事を書たり○又其下に金字にて和蘭の蒸氣船仲間と書付たる幟を懸け此幟の片端には和蘭と

と名附けさる紋版を懸けさり○又此天幕の後の方にも和
蘭の紋を付けさる幟を立て其外天幕の前後左右に諸外國
の幟を飜し又其中にも頗る立派なる數物を敷き其上にも
立派なる天井を張り椅子手摺り椅子或卓子等を置き其脇
にも草花等を植へ其中にも饗應の爲に美酒佳肴を備へさ
る卓子を設け加之日本人に烟草を吸はする為とてヘ子チ
や燈といへる彩色したる燈籠を設けゆへ此天幕も實に美
麗を盡したる書院の如くにして人く感せぬ者もなかりけ
り○又其端の處にも普魯士（プロイセン）國の小船ありて其中にも日耳
曼（ドイツ）諸國の幟を立て又其外此所彼所に數種の幟飜りさり
斯て右様日本人饗應の設けも全備せしかもフェーノールド
の士女等夥しく日本人の來着を見んとて疾くより天幕の
近邊を被方此方と徘徊せる内に鹿特堤より大砲の相圖に
て日本人の乘りさるヨインフィツレといふ船唯今濱邊を出
帆せしといふ知らせありけり○此大砲の音を聞て見物の
爲に寄り集りさる人濱邊に出て今や遲しと待ける内に數
艘の小船に數多の人乘り込んで來るを見れも果して日本
人商賣方評議仲間并製造方評議仲間等の案内にて濱邊に
着き直樣其處より上陸しさり○斯くて使節等一同案内に

つれて天幕の處に行き使節三人は手摺り椅子のある處に
場取り其外一同の者も皆其周圍(ぐるり)に場取りて直樣烟草道具
を出して烟草を吸ひ此處にて暫く休息をなしたり○偖其
休息の間に千萬の人日本人を見んとて其所に集り來りけ
れは日本人も頗る大悦の摸樣にて和蘭人と或は手眞似な
どをなし或は巧みならねど和蘭語英吉利語抔を以て心易
けに話抔なし暫くありて後數種の道具仕掛の雛形抔を見
物に行きしに蒸氣船仲間の製造方支配のオールトといへ
る人此處にて道具術に就て日本人に色々話し聞せしかど
日本人も大いに之に感心しけり○斯くて其見物も濟しゆへ

使節の來渡を祝ふ爲にとて饗應の酒食を出しけれは使節
等一同此處にて其饗應に預り終りて頗る丁寧に腰を屈め
て其禮を述べ夫より皆一同に散歩ながらに細工場を見物
に出かけたり

斯くて案内につれて先第一番に鍛冶場に到り此處にて鍛
冶師等大なる鐵塊を蒸氣仕掛の大搥にて打碎きて色々の
道具を製せるを見たり○又其後鑄物場に到りけれは此場
の鑄物師等頗る奇なる仕掛にて鎔解したる鐵恰も地中よ
り湧き出るが如くなして(日本人ゑしノールトに能く來り
たりといふことを文字に鑄出して見せけれは日本人一形な

らず感心して附添ふさるトンクルキュルスを以てヲールトに色々鑄物の事を委細に聞しかバヲールトも至りて丁寧に其返答なせしゆへ日本人一同頗る大悦しさる模様にて歸りさり○其他蒸氣仕掛の圖畫場或ハ其外を見物し其後鉋道具場に到り此處にて細工人此鉋道具にて瞬時間に大なる鐵屑を挽くを見て殊に感心し此道具の處に暫時留りて此鉋道具にても尋常の鉋道具に比ぶれバ半分の時にて同じ分量の鐵屑を挽くといふことを聞て大に驚き感じさり○其外ゼイランドといへる船の螺旋或ハプリンセスマリートと云ふ百二十馬力の蒸氣船とギュラカオといふ二百五

十馬力の蒸氣船を望見し並當時フリッシンゲンにて製造に掛り居さる船等を見物し殊に蒸氣手附（蒸氣道具に附きさる者）ハ使節等頗る念を入れて穿鑿しさり○其外案内につれて此所彼所を見物に行きしが使節等感心仰天せざる處ハ一ヶ所もなかりけり

斯て散歩も濟けれバ又案内につれて天幕の處に歸り此場にて又暫時休息をしさりしに彼のオールトといふ人別離の爲にとて又酒を出して使節等を取持ち使節等に向て日本と和蘭ハ數百年來好み厚き國なれバ此度の渡來ハ余國人とハ違ひ別て大悦に存すといふ事を云ければ使節

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-034
国立国会図書館

等此口上を聞て貴諭の如く實に日本人と和蘭人と舊來の信友とも稱すべき者なれと以後千萬歳和親を破らず永く交りを結ばんことを冀ふと返答して歸りけり

偖第一時の頃日本人の乘りたるヨインヲレといふ船ニイーノールドより歸り來りて其後又乘車に乘りてオーステレーキストームゲマールと云ふ蒸氣仕掛の道具場所を遊覽し此處にて色々の蒸氣仕掛の道具の働きを見て怜悧(カシコキ)日本人も速に其理を解し頗る之に感心せり○此時製造方支配の者ローセ并にヌックといふ人日本人に此蒸氣の働きの理を詳に諭しけり

此蒸氣仕掛の道具を遊覽して歸りたる後啞聾の子等を教導する學問所を見物に行きたり○此處にても此學問所支配の役人使節等をヒルスといへる大學頭の部屋に招待したり○偖此處にて大學頭も使節等に和蘭にて此學問所を建る和蘭人の仁心の大なる所を詳に云ひ聞かせ夫より啞或も聾の子供に唇の動かし樣或も顏面の模樣抔にて物事を教諭するを見せ又其後大學頭も使節等を誘引して今普請に掛り居る所の學問部屋等を見物させ此處に使節等を暫く留らせて十歳斗の小兒一人を使節等の前に出して鹿特堤の聾啞學問所の諸生等一同日本諸君の渡來に就て大

悦斜ならず殊に此學問所を見物に來り玉ひしも我等尤満足する所なりとていふ事を板の上に書付させて見せ其外上達しさる諸生兩三人を使節の前に出して日本の地理の事を板の上に書付させ抔して見せければ使節等一同頗る仰天せし形勢にて如何して唖聾抔に右様の事を教込たる者なる歟國王の仁政も勿論和蘭人の仁心も實に感心するに堪る事なり抔と互に語し殊に小兒の側に來り可愛らしき童哉と頻りに之を褒立たり○此學問所に來り居たる士女等皆此日本人の頻りに感心するを聞き居たり○右様の見物も濟し故使節等に童謠其外民間の謠抔を吟して聞かせしかば使節等一同唖聾の小兒の教諭行届きし事も勿論其外謠の事等に就ても總て感心に堪る許なりと云ひ厚く其禮を述たり○斯くて何も角も全く濟し故外國人姓名録といへる帳面を出して使節等に渡せしかば使節等一同其姓名を此帳面に書きのせ腰を屈めて厚く禮を述つゝ此學問所を出たりたり

其次に使節等コールシンゲルと云ふ處の病院（貧窮なる病人を養ひ療治する處）を見物に行きしにモレワーテルといふ人の娘等出迎ひて使節等を前坐敷に案内し此處にて饗應の爲にとて香花を出しければ使節等其花の香しき匂を嗅で頗る悦しげ

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-036
国立国会図書館

に見へたりけり○斯くてモレワートルの娘等は直様此使節等を誘引して蒸氣道具を見せんとて此坐敷より下の方に降り此處にて蒸氣仕掛けの道具を以て病人を高樓に造作もなく引上る道具を見せ其次には又製造場に連れ行ければ此處にてはプロウヱルといふ人此製藥の時其部屋を竈にて温める仕方を使節等に委しく話し聞かせたり○其次には使節等を分析所に案内して此處を見物させ此處より其脇に立て添ふたる處に連れ行きて解體部屋并琉黄湯の浴場を見物させ又其次には外料の療治部屋にて旋動する寐床を見物させ夫より又評議部屋に誘引して硝子(ビイドロ)の箱の中に入置きたる道具類其外圖畫等を見物させたりければ使節に附添ふたる日本の醫師等總て感心せぬ事はなかりけり○其外又使節等に蒸氣風呂或は病人部屋抔をも見せ斯て諸見物も仝く濟しかば使節等モレワーテルの部屋を見物し此處にて丁寧に暇乞をなして出去けり

其次にはホイマンと云る學問所の彫刻術の藝古所其外諸細工術の稽古所等を見物に行きければ其途中にて市中の人日本人を見んとて其同勢に附添ひ歩行く者幾千人といふ數を知らず實に勇ましき形勢なりけり○偖此稽古所にては此學問所の支配役ラツメといふ人並其添役等使節等

を招待して先門第一番に日本の陶器を夥しく集めたる部屋に連行きてこれを見せ其次に畫像部屋に案内して色々の畫像を見せ又其次に此學問所の大繪圖を入れ置きたる部屋並其雛形を納めたる部屋に連れ行き拯しけれど日本人滿足斜ならずして此處を出去りたり

斯て此見物も濟しゆへ使節等此處を去りてバタフィア.ゲノートシカップと云へる館舍に行きけれど此處にても其支配役の人々使節等を招待しギッタイパント並にカーレンと云へる醫師等此使節等の案内となりて諸坐數を見物させ其後使節等に烟草を吸むしめ又其姓名を姓名禄に書付させ

其後又使節に從へる人々を其隣部屋に連れ行き此部屋を暗くして其内に色々の物を寫して見せけれど日本人頗る面白く覺へたりき○其後諸部屋にある道具等を見せけれど使節等悉く心感せざる事なく殊にも鋸ぎり引する檣車并水車の働き等を見て其力の大にして且速なる事を驚ろき又エレキテルの道具を見せ或は地球儀を廻らし拯して見せけれど日本人速に日本國のある場所を見出し得たり其次にも又ウヱステレーキストームゲマールといへる蒸氣仕掛けの道具場を見物に行き此處にて蒸氣仕掛の車にて水を汲み盡すを見或は其外蒸氣道具の數種の働きを見さ

官板海外新聞別集 文久2年9月　WB43-84　076-038
国立国会図書館

り○此時ローセタックと云へる二人の者此蒸氣道具の働きの理を日本人に委しく云ひ聞かせければ日本人すこぶる感ぜざる者もなかりけり○斯て此處の見物も大抵濟し故使節等又乘車に乘りて和蘭船手仲間の會所出前すねに行きければ此處にて案内をなしさる役人并評議役の人々并オールといへる人々相伴となりて使節等に食事をなさしめさり

偖此會所の赤書院に行きければ此書院には先日の如く仍色々の美麗なる飾り立ありて其上に三ツの卓子を置き其真中の卓子を使節の卓子となし其外の二ツの卓子は外役人等の卓子となして是には數種の飾り付をなし或は亞細亞の草花等を飾り付けなどして其華麗實に云んかたなかりけり○斯て此處にて又年寄役の者使節等に茶を出し蒸餅抔を食せしめて後年寄役の者使節等に向て鹿特堤にても諸君希くは我等が懇切の情を汲取りて此後和蘭と日本の交り益厚く日本の商賣船鹿特堤の湊に絶へざる樣に致されよと云ければ使節は口上を聞て和蘭人の深切なる取持の禮を述べ加之以來和蘭と日本の親睦益厚くからん事を殊に冀ふ所なりといふ返答をなしさり○斯て色々の話も濟ければ年寄役の者は別れの爲にとて又膳部を出し暫

くありて食事も濟し故使節等暇を告げて此處を去りければ諸人フーラフーラと三度祝しけり

偖使節等此處を去りし時又奇獸の飼置場に至りて千萬種の奇獸を見物しヌトルレレスといへる有名なる詩人の像并其外畫工或は小説物著述物抔の立派なる像を見物すべしと勸めければ是より直に乘車に乘りて奇獸の飼置場にと急ぎけり

是まて諸所の見物の度毎に日本人を見んとて來る和蘭の士女等群集せざる處とても一ヶ所もなかりけれ共殊に此奇獸の飼置場にての群集といふは言語にも紙上にも述べ盡されざる程の事にて實に其近邊にても一歩もはこぶ事能はざる程なりき○日本人は此士女等の群集するを甚快き事に思ひされども余り甚しき群集にて鬱陶敷き故に少しく慰みにてもなして氣を引立んと思ひしにや種々の物を取り出して婦女小兒等に與へ抔して慰みけり

斯て夫れより使節等はマルチンといへる人の支配せる客館に行きければ此客館の諸役人使節等を招待し殊に三人の使節をは丁寧に取り扱ふて此客館の造營を企てさる仲間より出せる書翰を使節に出しけり○通詞此書翰を日本語に和解して使節に與へければ使節此書翰を一見して辱

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076- 040
国立国会図書館

き趣を述へたり○偖其應對も濟ければ使節等は各煙草道
具を取り出して烟草を吸ひ抔し此處に暫く休息して慰み
たり
偖此處にて暫時休息なしたる後使節等はマルチン并其外
支配役人等の案内につれて園庭に飼ひ置たる數多の奇獸
を見んとて此處に行き獅子虎豹或は象猿其外奇鳥等を見
物したり○其外又此處に人間其外活物等を喰ふ獸をも飼
ひ置きてありしゆへ日本人も頗る仰天せし模様なりき○
然るに前にも記せし如く日本人等は和蘭人の見物に來る
を甚悦へる模様なりし故此處にても日本人を見物に來る
者幾千萬といふ數を知らず實に一歩を進むる事も甚難義
に覺へし程なりき去れども日本人は此園庭にて數百種の
奇獸等を見物せし故斜ならず悦びたり○斯て此見物も濟
し故使節等はマルチンの住家の前にある築山に行きけれ
ば此處に支配役人其外數多の婦女子等集り來りて使節等
と共に頗る面白ろき慰みをなしたり○偖色々の慰みをな
したる後使節等マルチンの内室の畫きたる數多の畫など
を見てありし内に追々時刻も移りし故一同此場を去る用
意をなしたり
此の如き丁寧懇切なる取持ありし故上席の使節は通詞を

以て案内の人に種々厚き禮を述べ其外此饗應に出たる役人總體にも宜敷く傳言し呉れよと頼みたり

偖此處より使節等又乘車に乘りて其近邊にある問屋場の方に行き又此場處にて暫時休息なして使節等と饗應の役人等と互に懇切に暇を告け夫れより使節等一同頗る大悦せし模様にて王車に乘りてかへり行きけり斯くて引車（蒸氣車の前車）にても笛を吹て日本使節鹿特堤の遊覽も全く濟たりといふ事を知らせたり

諸處遊覽中數多の見物人日本人に附き添ふて日本人の遊覽を祝したる故使節一形ならず大悦せし模様なりき

海牙逗留中第六月二十一日（我五月廿四日）後の事

日本使節はボイテンホフといへる處の役所にて和蘭の外國掛り執政役と會合談話せんとて廿一日廿二日の兩日共夕方に到りて使節其外同勢三輛の車に乘りて此役所に行きたり○二十一日にも使節等議政上院と議政下院（上下院共に政事を論議する役名）の二部屋を去りて後前坐敷にて暫くの間此上院の上席なるヒリプセといへる人と談話し此談話も程なく濟ければ使節等も此饗應の行届きたる禮を述へ且スウィンデレンといへる人の深切なる口上の辱きを謝し其外向後も日本と和蘭

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-042
国立国会図書館

と益〻親しく交りたき趣を述へ懇に暇を告けて夫より下院の部屋に到りたり○此部屋にても國益掛りの役人使節等を招待して一ツの部屋に案内し勘定掛り執政役なるベツといふ人使節等に入來の挨拶をなしたり○使節等此部屋に暫く留りて此諸坐敷の立方并下院の人〻の會合の様子等を聞し後又始めの如く國益方の役人に誘されて此場を去りたり

又來る廿五日（我五月廿八日）にも使節同勢の内十五人之者俺特担（アムステルダム）（和蘭の第一の大都但し國王の居る處にあらず）に行きて其地の表立たる場所并其近郊等をも遊覧すべしといふ話あり

又廿三日（我五月廿六日）にも外國掛り執政役ソムフレツフといふ人セーフェニンゲンの浴館にて日本人に浴饗應の膳部を出さんとて其相伴の為に執政役諸人饗應掛り役人並奉行物頭都府年寄役をも勿論諸外國の使節をも招く筈なるよし

又近日の内日本使節等和蘭の諸部來丁（レイデン）亞零（アールレム）鳥特立（ウトレクト）痾威立塞（オーフルイツセル）并非里薩（フリースラント）等をも遊覧すべしと云ふ話あり

又近日の内に海軍掛り執政役カッテンデークといふ人使節等を饗應せんとて既に其邸宅の飾り付も勿論園庭にも一の美麗なる堂上を立て其内にて樂人組に音樂を奏せしむる用意をなし居るよし

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-043
国立国会図書館

日本使節和蘭國王に呈せんとて本國より齎し來りさる品物左の如し○染めさる日本絹十巻○無地の日本絹十巻○華麗なる鞍其外馬具一式○頗高價なる太刀二振なるに殊に日本にて斯の如き太刀を帶るを西洋にて政事軍事等に大功ありて高貴の位に登りし人の十字の印を付ると同様なる事のよしなり

又日本入鳥特立(ウトレクト)を遊覽に行くときも其地にて和蘭國の貨幣を見せ並債幣の製造をも見物させ且つペンニングといふ青銅の錢に日本字を打出して使節等に見せんとて其用意をなし居るよしなり

海外新聞別集 九月印刷

原本ロッテルダム新聞紙第十三號 千八百六十二年第七月七日即ち文久二年壬戌六月十一日なり

○日本國使節の事

日本使節我荷蘭國に來り心地よしと思えんと疑を容るべからず勿論是まで佛蘭西英吉利に於ても甚丁寧なる取扱を受けとり然れども荷蘭に於ての取扱も其親切なること殊更に勝れさり

右使節の人才秀でし事と又其人々の何時何處にても暫の間も銘々の職務を怠らず擧動穩靜なる事にも衆人皆之に

眼を付しなり又其下役等も諸事見聞しさる事を委しく書留め本國人民の爲に利益を取らんと思ひ間斷なく勉强せり右に付一度往きて不足なるヿなどあれば或は今一度往き度よしを乞ひ或は別人を遣し委しく之を吟味するなり夫故使節の同勢同日に數箇に別れ諸方に分散せり假令ば本使の公用にて外出せし時は其余の者は鹿特堤の病院又はヘインノールトといふ所を見物しなどして少しも油斷せざるなり故に日本人の遊行せしヿは迚も委しく之を書載するヿを能はず只其内の著しき遊行と格別なる話とを纔に爰に述るなり

外國事務宰相祝宴の事

第六月二十三日我五月二十六日にセヘニンゲンといへる所の浴亭にて外國事務宰相ファン・デル・マエセン・デ・ソムブレフ氏大なる祝宴を設け日本使節に晝食を馳走せり此時邑中には貴客尊敬の爲にとて家々に三色に染分りさる國旗を立て列らね浴亭には日本の旗をも飜せり

立派なる浴亭の樓上には數多の貴客來會し食卓も善美を盡し多くの花枝を以て如何にも美麗に飾り立さり

外國事務宰相は右食卓の上席に海の方を背にして座し海邊眺望によきよふに其真向第一の日本使節松平石見守を

座せしめ其余の諸客も一統よて車座をなす右順序も外國事務宰相の右の方よ羅馬教王の使節ヘレオデ左の方よ比利時國の使節巴命ジヤルジ教王使節の次よ國事宰相某其次よ墺地利國の使節巴命ランケナウ軍事宰相某嗹國使節ビルレブラヘ天主教事務宰相某瑞典國使節小侯爵マフニス當村役人某他洲領事務宰相の屬役ヒユルデル日本使節饗應役掟役巴命ソイレン下院の紳士ビーベルスティンドンクルキルヒユス饗應役森山多吉郎柴田貞太郎刑獄事務宰相某阿諾威國使節巴命ホデンベルフ海軍事務宰相京極能登守其次も先よ載せざる第一等の日本使節又其次よゼ子ラールマヨトル小侯爵ファンレートテン第一等饗應役是班牙國使節ラヘールジヤバト他洲領事務宰相某米里堅國使節パイキ上等評議役ヨレスゼ子ラールマヨールウヰルブレンニンキコロ子ルベルスレイケン饗應役外國事務局書記官頭取マセル學士ホフマン饗應役ラチオピソン國王の内使某佛蘭西使節巴命デラスヒレスーレウキス勘定局宰相某英吉利國使節アントレウヒユカナン下院の筆頭ファンレーチン其次も即ち先よ載せざる比利時の使節なり

此馳走も實よ善を盡し美を盡し諸事高貴なる賓客を請待する法よ適へり夫故事濟て後日本使節の滿悦せし由を外

國事務宰相より表向に當樓の主人に言傳へたり扨又右饗應の間に音樂初まりボトコルセキ氏の指揮にて儀式の曲を奏せり此日天氣も十分ならされとも樓下より築山に至るまで夥しく群集せり其後退散の少し以前凡第九時頃に日本使節甚奇麗なる着服にて座を立ち居合せたる小兒婦女子等に向ひ例の愛敬よき口上にて手を握り且所持したる菓子を與へたり其後日本使節を始め其他の諸賓客も皆其家に歸る

右馳走の指圖役を勤め勝れたる手柄を顯はせしも外國事務書記官頭取マセル及び海牙の捉役巴命ソイレシの二人なり四人の日本使節及び其下役等の喜大方ならず殊に海軍宰相并に其屬官と倶に築山の上に登りし頃にぞ一しほ快豁の色を顯はし其時右築山に居たる多くの人と交りまた小童等に親しみしに其小童等は花を採りて日本使節に贈れり此盛會に使節の始め來りしは第六時頃にて歸りしは第九時半の頃なり其道筋來りし時は新道を通り歸りし節には古村古道を經たり其節見物の群集最も夥しく殆と往來も出來ぬばかりなり右の通りにて諸事首尾よく事濟めり

海軍事務宰相祝宴の事

同月二十四日我五月廿七日海軍事務宰相カッテンデイキ立派なる晩食を設け日本使節を招きたり其客亭の庭上にて美麗なる花枝を飾りして數多の鏡の光と硝子燈の光とに相映じて總體甚盛なる景色なり又庭中にも漢土風に造りたる宮殿ありて見事に燈を耀し其中にて軍中に用ふる音樂を奏せり其他庭中一體の摸様極て風致あり凡第十一時頃より饗宴相始り日本使節并に其饗應役外國局諸役人諸宰相及び其他の重き役人貴人等夥しく集會せしが此時居合せたる貴婦人の裝ひ殊に目覺しかりし日本使節も右來會の諸人と極めて懇切に相親しみ時刻過て後旅館に歸り其余の衆客も猶暫の間殘りたり

右同日饗應の以前に日本の使節等官府の金銀工作場に往きたり此工作場もホールスコーテンといふ所に在りてイム.ファン.ケムペン氏に屬せしなり其節往来の道筋にも日本國旗と和蘭國旗とを多く立列られ又其住宅の樓上にも奇麗なる花枝を飾れり日本使節右住宅に暫時休息の後工作場の内に誘はれ其處にて金及び銀の荒金にて色〻の肝要なる試験をなし又も純精の金銀にて種〻巧妙なる細工を為す所を見たり右工作場の内に留まること一時ばかり過て元の住宅に來り又暫く休息せり其時後日の記念にとて巧

みに造りたる國王の半身像を贈れり右像ハ金地に銀にて模様を顯はし其上に浮字にて和蘭王維廉第三と書き裏の方にハ謹仰日本國帝之大命千八百六十二年とぞ書きける其次に又ニコラ氏フーシリン氏コ氏の蒸氣仕掛の粉挽車を見物の爲にゲーストブルフに誘はれたり其節當處の役人留守中に付フールヒュルフ村の役人待請をなし右工局附の役人案内をなしたり日本使節右仕掛にて挽きたる粉の精良雪白にして細密なることと又其諸事の速なることに感服し殊に其粉の諸節しの巧みなるに驚けり此饗應役の諸人日本使節と姑く懇切なる話を爲し此迄日本に此の如き粉挽車ハ勿論極めて手輕き仕掛さへも之なきことを知れりされど日本にハ粗末なる粉ならでハなきと見へたり故に日本使節右仕斗見物中此の如き仕掛を拵立る爲に入用なる書物を得たきよしを云出たり凡一時許の間工局見物し其後暫時休息して歸れり

安特堤府遊覽の事

第六月二十五日（我五月十八日）ニ第十一時半の頃に日本使節安特堤の蒸氣車立場に到着す掟役ブローウェル．アンヒルン之を誘引し兼て定め置たる休息所に赴きけれど當所の役人此所に出迎へり夫より用意の車に乘しが當所の役人ハ第一等

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-049
国立国会図書館

の使節と乗合夫より順序に從て次第に乗けりフラックと名
くる旅亭に姑く休息し其後コステル氏の玉細工所に赴き
夫より耶蘇教の徒の立置ける幼院を見物し次に手遊屋の
店へも一寸立寄り夫より一ト先旅館へ歸り凡第六時半頃に
再ひ車に乗り國王の館を見物の爲に出掛けり日本使節の
到る所いつこにても見物人夥しく群集し旅亭の前などは
宛も圍を請くるが如く殊に日本人窓より顔を出し見物の
者に會釋などし色〻の品物および小錢等を擲與へし時は
此群集殊に甚しかりき扨國王の館を一覽しクウベルとて
屋根の高き所に登りなどし夫よりオウデケルキと稱する

寺に詣て其後カルフルスタラートといふ町を通り第八時
半頃に旅亭に歸る
同二十六日（我五月廿九日）國用造營場に到り夫よりオラニイナス
サウと號くる兵卒の屯所を一覽し次にフリッシンゲン氏ジュ
ドックファンヘールル氏の工局を訪ひしに朝食の馳走あり夫よ
りボイクスローテルと稱する運上所に到りけれは此所の
ヒュルステノウといへる廟所にて朝の音樂を爲せり
夕方になりて和蘭貿易會所にて食事を爲せり此處は兼て
待請の爲に立派に飾付け庭にも燈を耀かし且其内に美麗
なる小亭を設けスチュムプ氏の音曲を樣〻に聞かしめり右

食事の席に列なりし人員數多あれど頭立たるは此所の役人某本府警衛の號令官某スュートベイナクトベスセルロイテナントコロ子ルヤクソン等なり日本使節も右諸役及ひ來會せる貴婦人等と殊更に懇親す右食事畢て後凡第八時頃に旅館に歸りしが其夜も更るまで窓に出て旅館の前に雜沓する諸人の様を詠め居れり

二十七日（我六月朔日）にも日本使節國用傳信機の場所に往けり此日も國事宰相局の屬官スターリンクの案内なり右見物すみてトレスリンフ氏の石版所に往きしに此所にて使節馳走の爲に其眼前にて種々彩色の画を摺出せり日本人之を見て頻に感服し色々の質問を爲し大に滿足の色を顯して此所を立出で次にコーエー氏の砂糖製造所を訪ひ夫より盲人館を一覽し第一時頃に及ひ又其所を出て博物館に往きしに此所にも亦夥しき待請の設ありて費用をも惜ます煩勞をも憚らす客殿より諸所に至るまで飾付に美を盡したるは目を駭かすばかりなり其他動物學科の園庭の盛にして我都の光耀を添るに足れることも爰に論述するにも及ばざるべし

晩景におよひ日本使節逍遙園の夜遊に出會せしが其内數人もスピークルスタラートといへる町のイブスヌーク氏

を訪ひ其眞影所を一覽し自分の眞影をも取らしめたり夜遊むスチムプ氏の設けたる見事よして其燈明就中美麗なり惜むらくは此時俄よ暴雨降出せしよより諸人甚た難澁し來會せる婦人等よは衣裳の爲よ殊よ大なる故障なり

二十八日（我六月二日）よは日本使節第十時頃より乘出し當町の役人及ひ其余數人よ誘はれ當時普請最中なる百工館の周圍を乘廻し夫より市中の幼院及ひファン ホウテン氏の倉を順覽し就中同氏所藏の日本漢土の古物を見て感服し夫より諸家の店よ立寄りしか其内最も重なる店はハ・ハブルコッテ氏ムラス氏ファン デルモーレン氏シンケル氏ハルマン氏等なり第一時半頃よ會議所よ至り其會議を爲たし坐舖よて小休の馳走あり其後離別を告るとて安特堤逗留中厚き歎待を受け至極滿足のよし丁寧なる挨拶を述へ凡第三時半頃よ海牙の道よ旅立ちぬ

和蘭王よ謁見の事

第七月一日（我六月五日）晝後第五時半頃よ日本使節儀式の行列よて國王の館よ出仕せり此行列は騎兵一隊と五輛の官車なり此五輛の内四輛は馬二匹宛よて率き真中の一輛は四匹の馬よて率さるか是れ即ち第一等使節の乘られしなり其他乘車の入口よはいつれも若黨一人宛和居り騎兵は右

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-052
国立国会図書館

乘車の前後左右を圍みて守護せしなり途中通行の間もホールンと名くる樂器と喇叭とを吹立つ是も軍禮に用ふる音樂にて極めて勇ましき調子なり此時使節を誘引せしはセルモニーメーストルといふ役人なり此役人事濟て後ベレフーと號くる旅館へ使節の歸らるゝ時にもまた送り行きたり使節程なく王の館に到着ありしに館の内にもグレナジールと號くる軍士警固の爲に大隊を備へ使節の入來を待受け軍法の儀式を以て尊恭の禮を爲せり此時外國事務宰相出迎ひ誘引して國王の前に出て謁見の禮を行はしむ右謁見の禮凡半時計もかゝれり扨日本使節の國王に言

上せし語を翻譯すれば其大意左の如し

謹白

私共 大君殿下の大命を蒙り今日大王の殿下に拜謁し奉ることを感激の至りに堪へず候抑條約取結ひ候てより以來兩國の交際日々に親密に成行き候に依て此度大君殿下親筆の書簡を大王に呈して聊微衷を表し且條約の取極を改定せんと欲することを私共に命し取計らはしめ候其他私共謹で大王の爲に幸福を祈り貴國萬民の安全を希ひ申候

國王の返答大意左の如し

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-053
国立国会図書館

予今　貴國大君殿下の好意を足下より承知いたし大慶の至に候是よりも　大君殿下の幸福を祈り貴國の泰平を希ひ候殊に日本と和蘭の交際を條約の定に基き舊來の好みを繼き此末益張大親密ならん事を偏に期望いたし候

此時當所并に諸所より此大禮を見物せんとて其群集せし事大方ならず然るに此日天氣好からざりしも實に殘念なる事なりき

二日（我六月六日）日本使節王妃世子公達姫君フレデリキ君に見參す

日本使節國王に贈物として立派なる寶刀を獻ず其柄も寶石にて飾れり世子に獻せし太刀も畧同様なり

六日（我六月十日）國王王妃日本使節を馳走の爲にヘットホイステンボスと號くる宮殿に於て午時の大饗を賜ふ其翌日公達姫君もまたヘットホイステパウと號くる宮殿にて晝食を賜ふ

デルフト府遊覽の事

第七月三日（我六月七日）日本使節同勢の内十四人にて海牙の使船に乘りデルフト府に來されり第十時頃にハークポールトと號くる都門に至りけれど當地の役人出迎ひ民兵の音

樂にて誘引し用意の車に打乘せ先つ國用の細工所に連れ行き夫より少し府城を離れ彈丸の鑄立場を一覽し第一時頃に府城に歸り會議所にて馳走あり其間門前にて民兵の音樂と砲隊の音樂と代るゝに奏しより第二時頃小筒打立所に行き夫より耶蘇教の新寺古寺を見物す此寺は世人の兼て知りし通り古来有名なる人物の像を飾りし處なり右見物畢て大學校に臻りしに學士の面々此時既に待受としてプリンセンサールといふ客殿の中に集り居れり日本使節の入來を見て其内よりクウレナールといへる役人立出て使節に向ひ貴國と和蘭との交際も年歷淺からず今日始めて大使に會することを得て學校の面目一方ならず候學校中の事に付ても何事によらず尋ねたまふとあらむ答へ申べし且此後日本國の學士と親密なる交を結び學問上の事を成るべきたけ雙方の論説を交易することを得るに至らむ學校の喜び何事か之に過きずとぞいひける

日本國の通辨官右學校役人の口上を譯して日本使節に通せしに使節大に喜び同し通辨官に命し親切友愛の意を蘭語を以て返答し其後學校役人和蘭譯司ドンシル キユルキユス及ひ其他の大小學士の案内に從ひ諸雛形類を納めたる所に入り諸器物を見て大に感服せり

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-055
国立国会図書館

右見物に姑く手間取りて後學校役人ケウレナール氏の宅に招かれ其所に少く休息す此時ケウレナール氏の内室の招きにて數多の婦人寄添へり使節學校を出る時多人數の生徒等一列に並び音樂を奏して尊恭の禮を爲せり其後イヘウケンスヘルト氏の毛氊製造所及びレラース氏の羅紗織場を一覽す右通行の間にドンクルキユルヒス氏の宅にも立寄り最後に今日諸所を案内したる當地役人の宅にも罷越し夫より暇を告け車に乘り第六時頃に海牙に歸れり此日天氣惡しく雨降り續けされど何れの所にも夥しく群集し日本使節に會釋し中にも花を採りて贈る者あり

公館官署の類は勿論市中の家々にも所々に和蘭國旗と日本國旗とを飾り置けり

來丁(ライテン)府遊覽の事

使節の同勢此度は十六人にて饗應役數人の案内に從ひ第十時頃に來丁に來れり其イッテポールトと號する都門の少し先にて俗役并軍役懸りの諸人及び當所の役人ドチブールレーゲンベーキ捉役セウヒユフレフトマヨールイハムテルブルゲシヘン當所警固の號令官等出迎ひ市中にも所々に日本並和蘭の國旗を立て列らぬ航海學校の稽古人は土手にて列を立て尊恭の禮を爲す使節は夫より直に博物館に

趣き其役人の案内にて色〻見物して感心せしが其内一二
人早急の際にて諸事細かには見ること能はずとて窃に歎せし
由なり此時天氣快晴に及びければ乘物の戸を開き更に遊
行すべしとて右博物館を出て夫より大學校に到る此處に
ても大學士プ・ル・レイキといへる人出迎ひ日本使節と問答
し其後右大學士の誘引にて學校中を見分し本草局觀象臺
窮理局舍密解剖局に到り學士の指示せる品物及ひ證據を
見せさる實驗等日本人仰天せざるもなし夫よりハ・ハ・イ氏
アレホーレ氏に至り呉絽服連及びポレミーテン類の工局
を一見す此處にも兼て待受け種〻の仕事を為せしに一〻

心を留て見物せり夫より會議所に至り當所村役人民兵の
號令官野戰砲隊の號令官等に面會す夫より猶進みて國用
の大鍛冶局に至る此局は先年日本政府の賴によりて大鍛
冶所の形を造り贈りし所也此處にても當工局附の人員に
誘はれ旗并に色〻の物にて飾りたる客室に通り厚く欵待
せられ夫より局中所〻の仕事場并に倉等を順覽し就中大
小圓柱形の仕懸にて古鐵を直し捍金又は角金と爲す所を
見て殊の外感心し其外鐵軸錨鏈等大小諸種の製造を一覽
し其後四十一ストレーフ我一寸三分餘の大なる鐵の大鏈を水仕
懸の〆木にて樣し此〆木の勢力を示さんとて態〻其大鏈

を引切りさりさすが怜悧なる日本人も之には大に仰天せり最後にカランツ氏ソーン氏の羅紗織場に臻る此處にても使節を款待なし色々の所作に目を驚かせり以上處々順覽の間諸貴人婦人等東方の異人を見んとて來りし者多し此中に花を使節に贈る者も儘ありける

多分の遊覽にて使節少し疲れし頃當所役人の宅に誘はれ晝食の馳走あり其間民兵の音樂絶ゆることなし第八時半頃に至り馳走の厚きを謝し右役人の宅を出て都門を出る頃に航海學校の稽古人恭禮を爲せり總じて此使節の來りし所及び往來の道筋等見物の群集せし事を云までもなき事なり

雑記

二十五日に日本使節安特堤に來りし時其附屬の日本人等吹聽なしにヘエンノードに至り和蘭蒸氣船仲間にて建置さる普請場を見物せり其節右仲間頭取の案内にて殆終日細工場に留り夕方に及ひて海牙に歸れり又名高き鹿特堤の病院へも右の如く忍にて來り終日其處に居れり又ツイデルビュルフの醫學所へも日本人七名にて屢來遊し始めに諸器械を熟覽し其後解剖稽古所に至り色々綿密なる稽古をなし其學び得さる事は直に手帳に書留めとり其後日本

人の怜悧にして物毎に巧者なるに驚きしとありヘンデリックスといへる人日本人に眼料療治の法を寫し見せしに日本醫師等其習ひしことを爲し試みんといひて種々の六ヶ敷手術を精密敏捷に爲し遂けたり此時見物の群集移しかりしが何れも殊の外に仰天す又此度日本人と同道せし人にレオンデロス子イといへる勝れたる學士あり年齡僅に二十五歳なれど胸に數多勲爵の表章を懸たる人にて東洋及び亞墨利加の事を講究する任を受け嘗て東洋言語を學ぶに善き書籍を著はせり此人今度佛蘭西政府の命を蒙ふり日本人に陪從し日本人歐羅巴諸國を周行する間之に同伴する由なり

又日本人等程なくソイデルビュルフに三度目の遊覽をなすべきよし風聞あり

日本同勢の内に安持堤に行かざりし者ありて二十七日に新兵民兵等の調練を見物に來たれり右の日本人に調練の理解並業前等少し教へたれど彼等其跡にて大砲一挺を遣ひしが諸事能く心得へ其手續き其見事なりワールスドルプといふ所の原にて調練ありし節にも彼等來りて鐵砲を取扱ひまた其手際をあらはしたり

また日本使節の内三人連にてイジオートスコールといへ

る初心なる者を教授する所に行きたり不意の事にて教頭并役人等兼て用意も爲さゞりしかど折角の珎客に萬事を明に見せしむるに差支へたる事なかりし日本人凡一時ばかりの間諸事熟覧し自ら色々の圖取などを爲せり彼等殊に小兒を教導する人の辛防よきに感心し且其制度の適當したる事と人心の歸服し居るに駭けり

國王より命ぜられし日本使節饗應役の者より來因河筋の堤方奉行へ掛合ひ日本使節を迎へ來因河筋の普請の仕様を見せ諸事委く説き聞かすべき旨所望ありたり右に付近々の内に日限をさだめ日本使節を誘ひヘーネンビュルフの立場よりリッセを越し亞零湖の干潟の内を通りレーフワトルに赴き此處にて干潟支配の者使節を迎へ馳走の爲に大仕懸なる機關の運動あるべし夫よりノールドウェーキを經てカットウェイキに赴き此處にて使節に食事を進め水門を見せ諸事を説き聞かせ相濟て後使節を海牙に歸らしむべし

日本人爲特立に來るべき時日えいまだ相分らずと雖此地逗留中に何れ一度セイスト及びデリイベルベンへも罷越し其節まさセイストの陣所をも見物すべし此事既に風聞ありて夫々待受の用意せり其外時日に猶豫あらそフレースウェイキの水門をも見物すべきよしなり

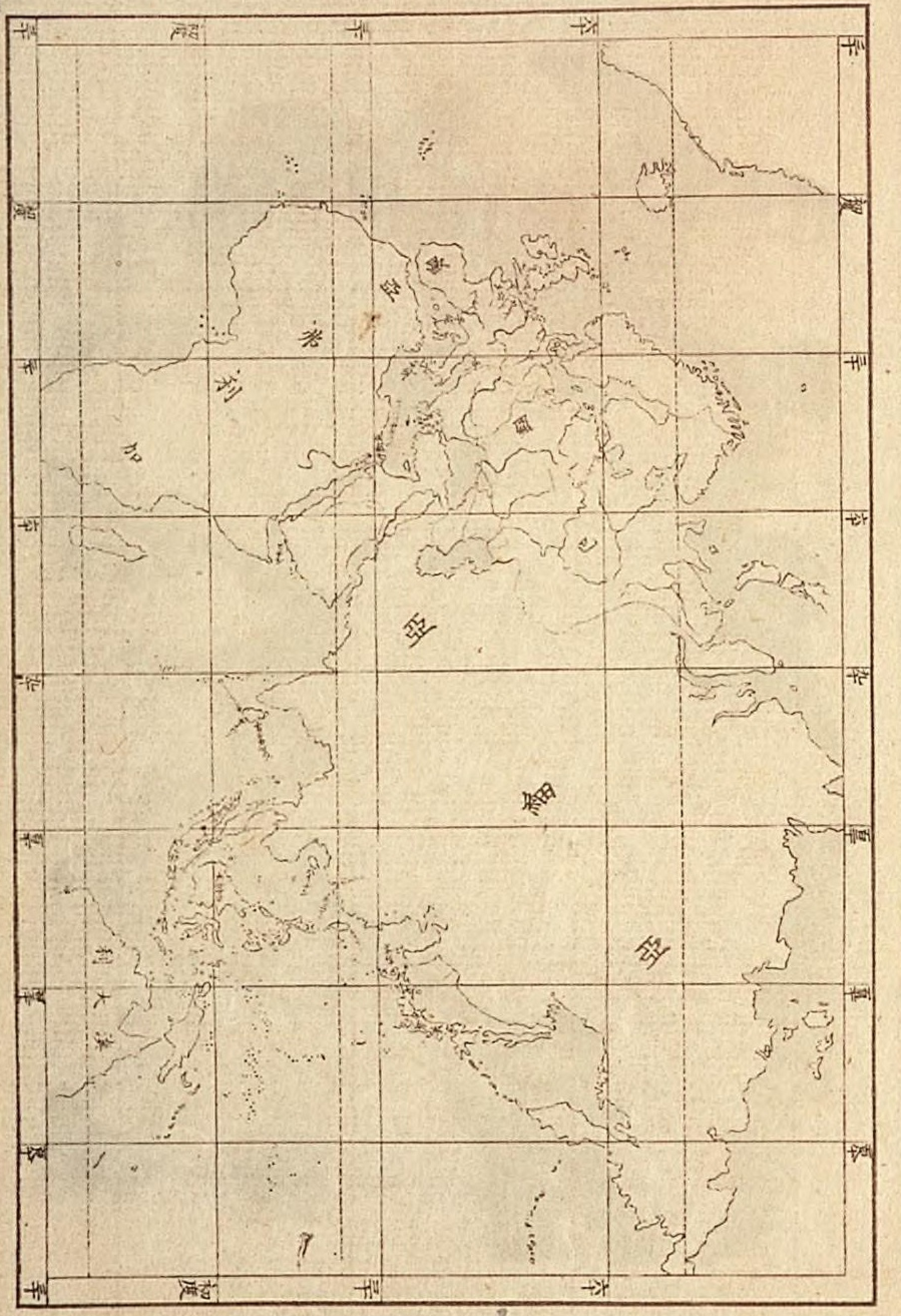
日本使節と外國事務宰相と談判の主意は先に日本にて和蘭及び其他の諸國と條約を取極日本某港を千八百六十三年第一月一日より開くべきよしを定めたり然れども今また日本にて此定めを姑く延期せんことを求むるよしなり使節の存意は日本人民猶未ダ十分に開けず夫故今俄に所々に於て歐羅巴人と相觸るゝ時は國の太平を害ふに到るべしとなり

英吉利に於ては五年の延期を承知せり（日本人の求めしは七年なり）佛蘭西に於ては聢としたる返答なく何れ外諸國と同様の振合にすべしとなり和蘭政府に於ても延期の事承知せしが又は佛蘭西同様の説なるかいまだ相分らず然れども今日新に外國事務宰相と應對ありし趣なれば多分右の談判も既に相濟たるなるべし

日本使節伯靈の方へ出立すべき日限は第七月七日（我六月十一日）と定まりたり然ども殊によらば今少し延引すべし其故はスーストデイキに居ます國王の母君を訪ひまいらすると否との程いまだ相分らざるによれり

日本使節出立の節は應接役の者之を送りて普魯士境に至るなるへし多分ジエセルドルフに至り此地に普魯士王の應接役出迎ひ誘ひ行なるべし

日本國使節針路略圖



日本使節佛蘭西使節の旅館を訪ひしに折節留守中にて書記官の者出迎へり

英吉利使節之日本使節の爲に祝宴を催せり

日本使節葡萄牙の使節巴命セサルを我方に招けり又安特堤の貿易會所より一人の用達を日本使節に附置しが其者諸品物の見本を持行しに日本使節其内より最も本國に關係ある物を指示せり其他日本使節右用達と相親しみ交易の學問及び日本交易に係りたる事等を尋ね問へり

發閲目錄

舶來蕃書類

官版原書類

同翻譯書類

東都竪川三之橋

萬屋兵四郎

老皂館

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076-063

国立国会図書館

850

官板海外新聞別集 文久2年9月 WB43-84 076- 064

国立国会図書館